

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結 果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と肯定的に回答した生徒の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	70.0%	86.1%
将来の夢や目標を持っている。	50.0%	67.5%
自分には、よいところがあると思う	90.0%	86.2%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	70.0%	84.7%

「学校に行くのは楽しいと思う」の項目は、7割の生徒が肯定的な結果を答えています。

「自分には、よいところがあると思う」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	20.9%
「1時間以上、2時間より少ない」	30.0%	30.8%
「30分以上、1時間より少ない」	40.0%	19.1%
「30分より少ない」	20.0%	11.3%
「全くしない」	10.0%	7.7%

家庭学習についてはほとんどの生徒が1時間前後取り組んでいるようですが、全く家庭学習をしていない生徒もいるようでした。

(2)改善に向けての取り組み

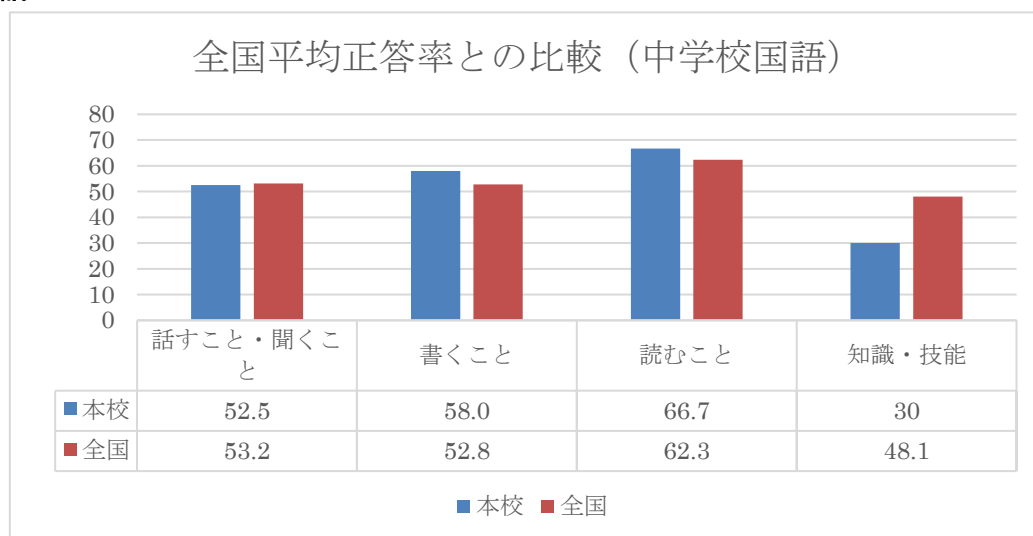
【学校では】

- 主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。
- 「自律」である自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。
- 失敗は、成長につながるチャンスとして捉えています。対話をとおして、互いを知り、認め合う力を育んでいきます。

【ご家庭では】

- 「尊重」の力を育むためには、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。
- 「芙蓉中家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」「読むこと」は、全国平均正答率を上回っています。また、「思考・判断・表現」は全国平均を上回っている一方で、無解答率が高い傾向がみられました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、正答率 54%は、全国平均正答率 54.3%とほぼ同等であると言えます。評価の観点別では、「思考・判断・表現」で全国平均を上回り、問題形式の「記述式」の正答率が全国平均を上回っていました。その一方で、評価の観点別の「知識・技能」や問題形式の「選択式」が全国平均を下回っていました。主体的な学びの視点と協働的な学びが活性化するような授業改善を図ることで、生徒の国語力を伸ばすことにつながると考えます。文章に書かれている内容の本質に迫る読み方や、そこで考えた内容を表現する活動を通して、提示された選択肢を的確に選ぶことができるようになると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

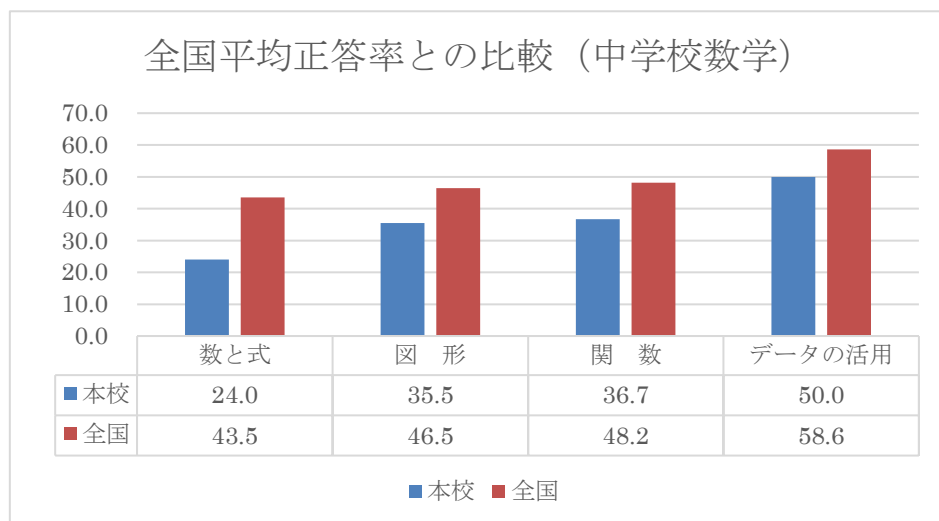
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 数学



(1) 結 果

全体の平均正答率で全国平均を下回る結果でした。全ての領域で全国平均を下回っています。また、無解答率では、問題によって全国平均より低くなっているものもあります。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「B 図形」の領域の、証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだすことができるかどうかをみる問題の正答率が全国平均を上回っていました。「A 数と式」の領域では、全ての設問の正答率が全国平均を下回っていました。「数と式」は数学の全ての領域の基礎となるものです。年間計画に沿って学習を進めていくと同時に、基礎的な計算の練習を継続的に行うことで、数学の力が確実なものになるような指導を行っていく必要がと捉えています。そこから、「図形」「関数」「データの活用」といった他の領域に対して主体的に課題意識をもって学習に取り組む生徒の育成につながると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

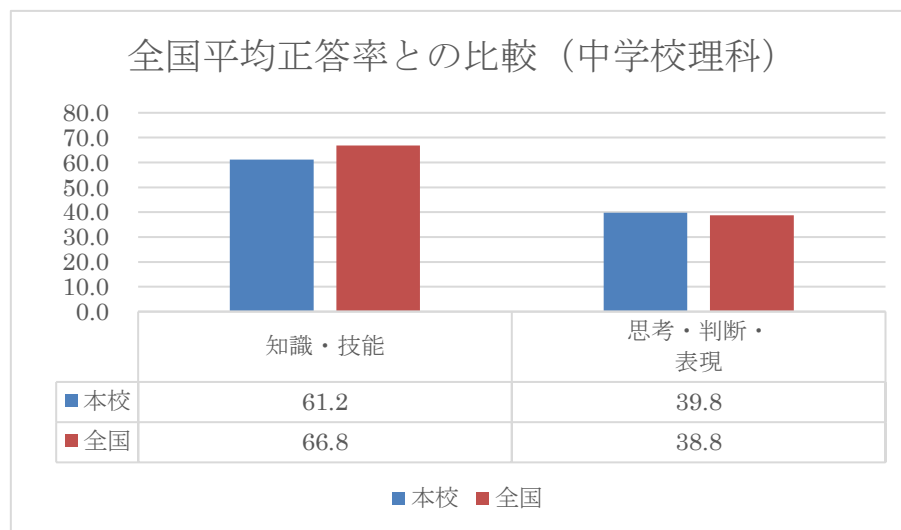
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理科



(1) 結果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、評価の観点での「思考・判断・表現」の正答率が全国平均正答率を1.0ポイント上回っていました。また、「粒子」を柱とする領域の、科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる問題の正答率は全国平均正答率を大いに上回っていました。電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題が全国平均正答率を下回るなど、問題形式の「選択式」の問題で課題が見られました。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れながら、他者の記述した内容と比較することで正しい理解につながるような取り組みが必要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。